

「おきいーいから

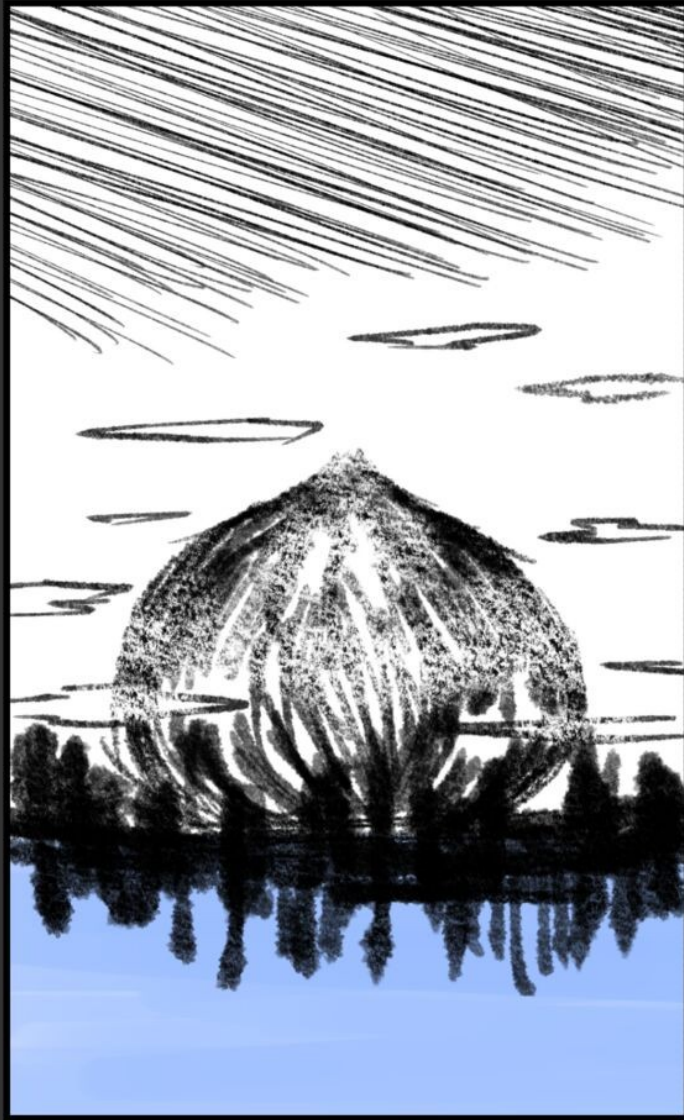
おしてくれなんだ」

すこし^{たか}高いところに登る時^{とき}、おとこのこの視界^{めのまえ}が
無防備^{むぼうび}なかわいいおしりです。はいになります。



ばっどあす・しやったーどれるむ
最悪のオブジェクト

「たまねぎ山」^{やま}



ここ^{みはり}の検証のために
はるばるまほうのくにから
外征^{がいせい}んできたというのです。



「おまえみたいないっぱいばんじんを
たすけるのもしゆぎようのいつかんだ」

魔女つ子ルヒネは同年代くらいながら
とつてもりつぱなおんなのこです。
おまけに清潔高級白人美少女です。



「つてなにしてるー！」
「たはは……つい」

た、たいへんです！

おとこのこの指がまちがって
ゆび
衣服ごしにルヒネの美尻の中央の窪みに
たからしま
えんりよなくずぶりとしずみます！
でりけーとばれー



「うえくやつちまった…」

「やめるのだ！」

そこにかわがある

からあらうんだ！」

なんと腹立^でたじ^りい^な反^し応^でしよう！

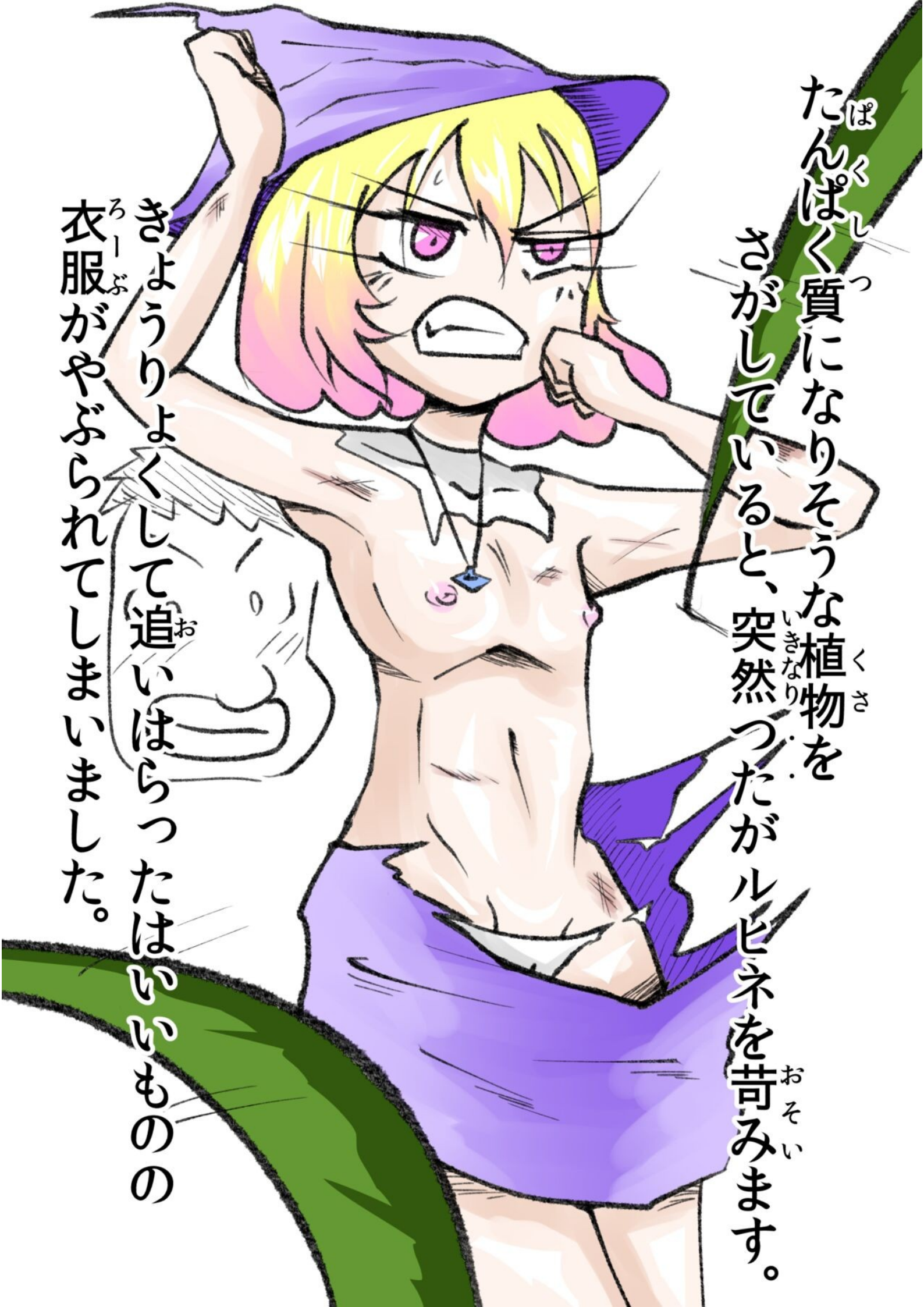
おとこのこはルヒネの窪^るみ^ひにはいつた

浄^く化^{さい}され^わけ^けの^ない^いた^いゆ^びを^いや^そう^にか^いで^いま^す。

たばくばく質になりそうな植物を

さがしているると、突然つたがルビネを苛みます。

きょうりよくして追いはらったはいいものの
衣服がやぶられてしまいました。



「みたいなんてえっちめんだな、きみは」

ぼーつとみているおとこのこ

わざとらしいポーズをしてみると

ほんにんも事の重大さにきづいたようです。

しかし……



「え、えろじやねーし！」

この年頃のおとこのさにとつて「エロい」は禁句です。
ルビネの乳房がつままれてしまいました！
超然としたルビネも目を丸くします。





「ここにはわたしがあたらしくふくをつくるために
ひつような「ノヤヨペト草」がはえてるはずだ。」

あれだけの原罪を(げんこつ)手打ちでゆるされた
おとこのこと(くさ)と植物さがしをはじめます。

ポニヤフコベヌニ草を
みつけました。



てらりあ
作業台にはいつて数刻い
あたらしい服ができました。

「これがまじゆつ「おさいほう」だ」
軽装に身を包んだ

ルヒネとさきにすすみます。



「ハハのおおきくなら

ごへハハおきけや」



すごい変なやつが
とおせんぼしています。

「たまねぎやまのひと…」

もしくはあがりびとだ」


かれらを尊重し、ほしがるものを
ささげるのが賢明だろう、と
ルビネはつけくわえました。



「おはんつみせしてーや」



「おはんつみせしてーや」



「そんなのでわたしがいもひくともでもー！」
レヒネはおしげもなくスカートとすかをめくり
10分ばらほどそのなかみを見せつけます。

しかしさきほどのつたごうげきで下着ろくろをなくして
いるのをきづいていません。

つまりだいじな女性器あそこをみられてしまっただのです！

たてすじ
女性器をみせてしまった

後悔しよつくから二時間すくらいさかけて
切り替たえようとするも

よわつたルヒネの足元あしを
くだんのツタやつ、きんがねらいます！



不幸！ルヒネはおとこのこの顔面に

しりもちをついでしまいました。

毛もはえていないすべすべのおまたが
密着して白昼に晒されてしまったのは、
のがれようがない確定的な事実です！！



「み、みてはいけないんだ……」

「うおあ!?!ぼくのかおでなにやつてるんだようお!?!」

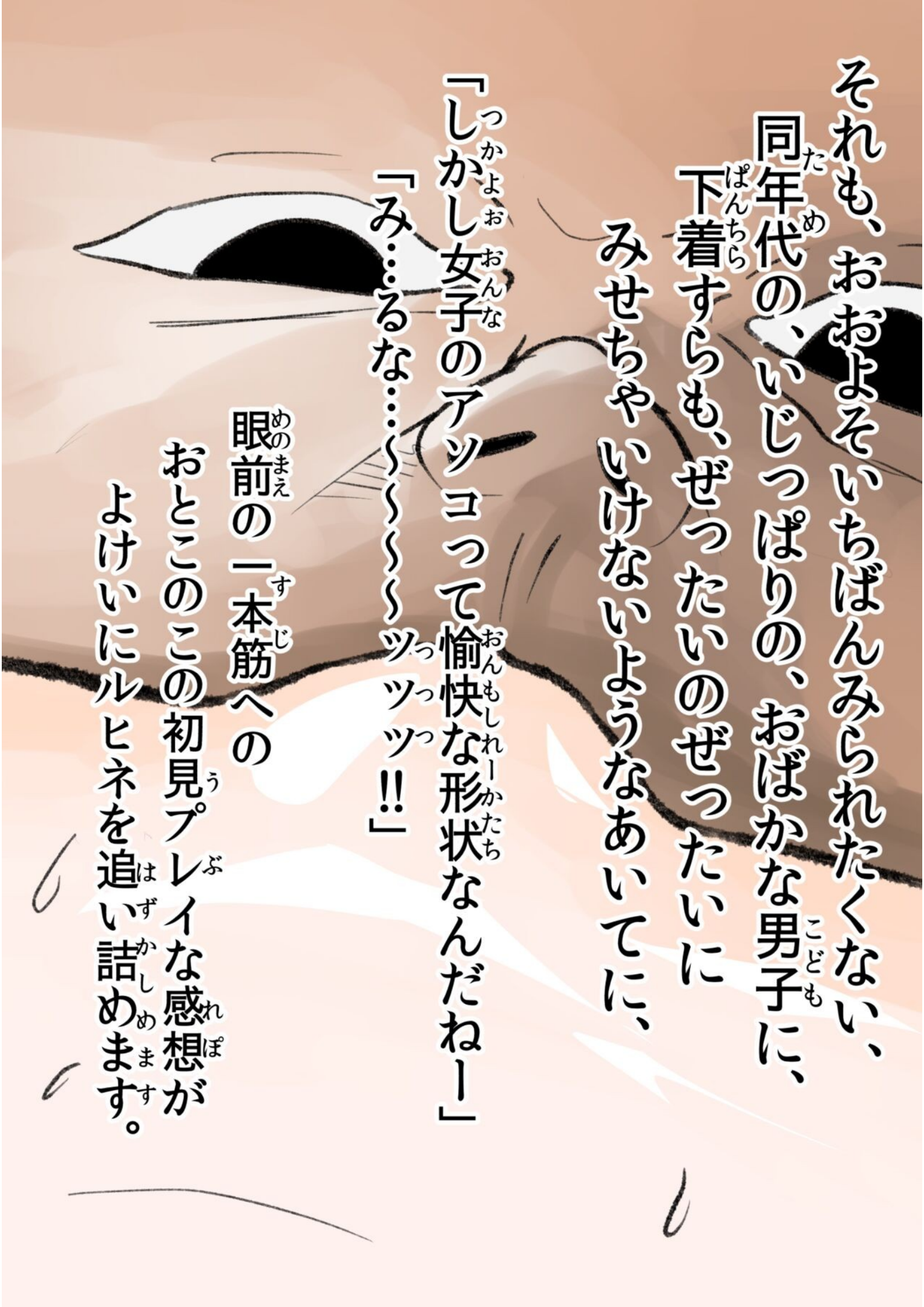
股^{まんげ}下のおとこのここからは

隣^に接^あしたおまたの匂^{でい}いもわ^すかるで^{いんぐも}しょう。

「もっ。。。やなんだ」泣きつづ面に蜂です。
そのシヨツグたるや想像を絶します。



いかに気が丈に振る舞つてきても
異性に素肌を見せられない育ちですもの。



それも、おおよそいちばんみられたくない、
同年代の、いじつぱりの、おばかな男子に、
下着すらも、ぜつたいのぜつたいに
みせちゃいけないようなあいてに、

「しかし女子のアツコって愉快な形状なんだねー」
「み……るな……く……く……ツ……ツ……!!」

眼前の一本筋への

おとこのこの初見プレイな感想が
よけいにルヒネを追い詰めます。

「くっせーもんみせてきやがっで
このしよ^しうべん^むむれ^れむす^すめめ〜!!
と、おと^{くそ}このこ^{やろう}は回^い走^きります。

^{ふざけるな}
なんと! おちこむ^はレヒネの^り
おしりにAAAをかましたではありませんか!!



「わたしのかれんなおまたのどこがくさいのだ！」

においにとくべつ^{せんしていぶ}過敏なルヒネは

おもわずおこり、たいせつな股間部^{るひね}を再度^{また}

おとこのこの顔面^らにくつつけたではありませんか！



(しかしみようだ、ふうんがつづく、もりぜんたいが
わたしにあくいをむけているような――)



かすやろろう
おとこのこの凶行に

あいすえいじ

冷静さをとりもどしたルヒネ、

なにかにきづきかけます

「そこのなニ方、失礼しまーす！」
可愛らしいおんなのこが呼び止めてきました。
ルヒネとおとこのこと少し上でじようか。

(にほんまじよか……?)
ルヒネはけいかいします。



「ぼく、「ユノ千」いいいます。
たまねぎ山は管轄うちのシマのため
此度の外征なの目的かを
開示おきかせいたただくつちや。」

「いっせーので
いおうか」

たまねぎ山は
夢の象徴です。

たとえばいつか

噴火するとしても

ふるのは希望

でしょうがよ！

たまねぎ山は悪の象徴だ。
悪意をもつて噴火する…
それをつきとめるのが
本場の魔女としての使命だ！

てな具合です

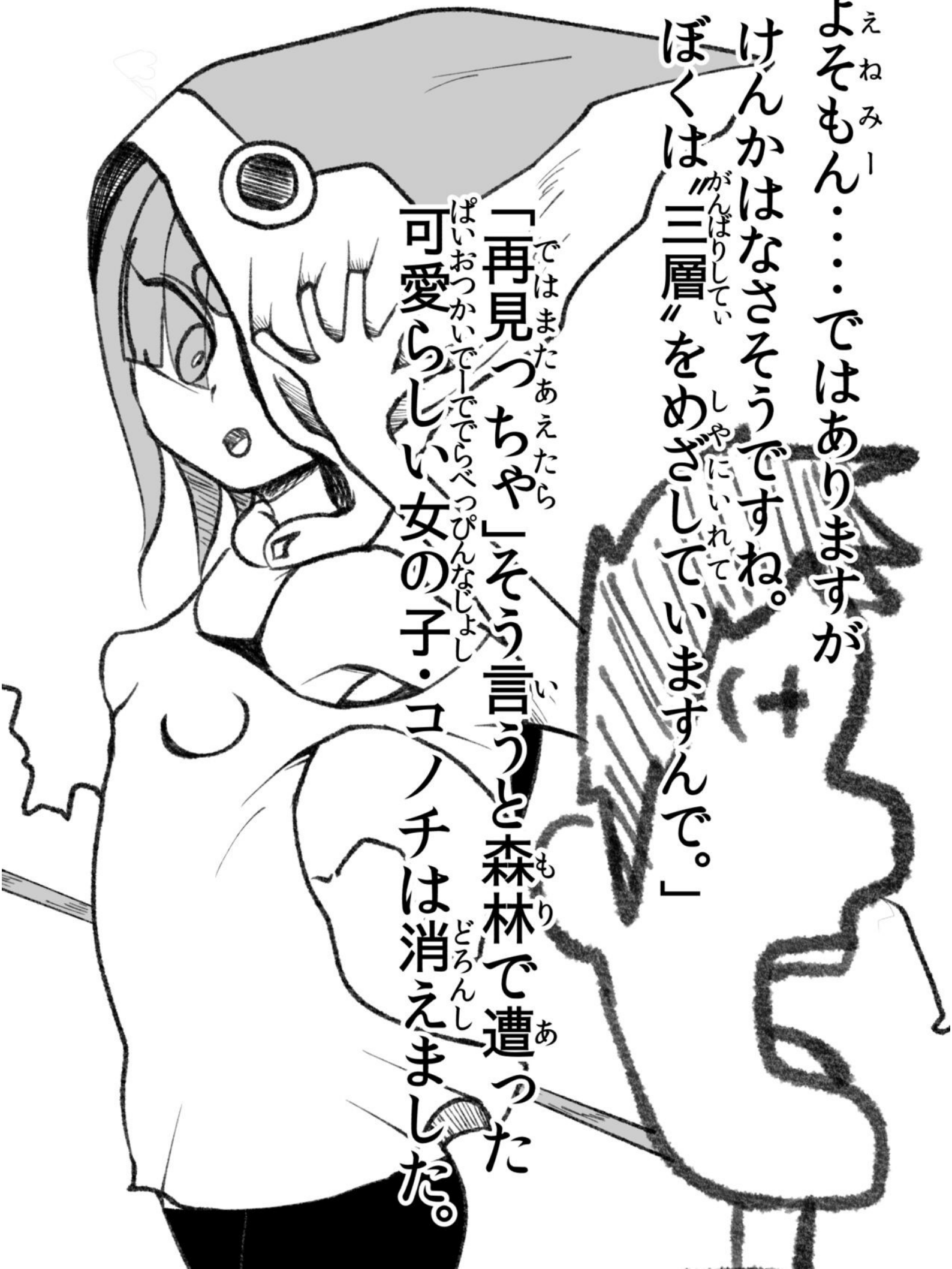
「よそもん……ではありませんが」

けんかはなさそうですね。

ぼくは「三層」をめざして「いますんで。」

「再見つちや」ではまたあえたら「そう言う」と森林で遭った

可愛らしい女の子・ユノチは消えました。



「べつぴんだつたなあくあのこ

だれかさんとちがつてむねもあるしよお」

「がんちゆうにないど!?!」

おのれおらつきよつてむしとりあみおんな!

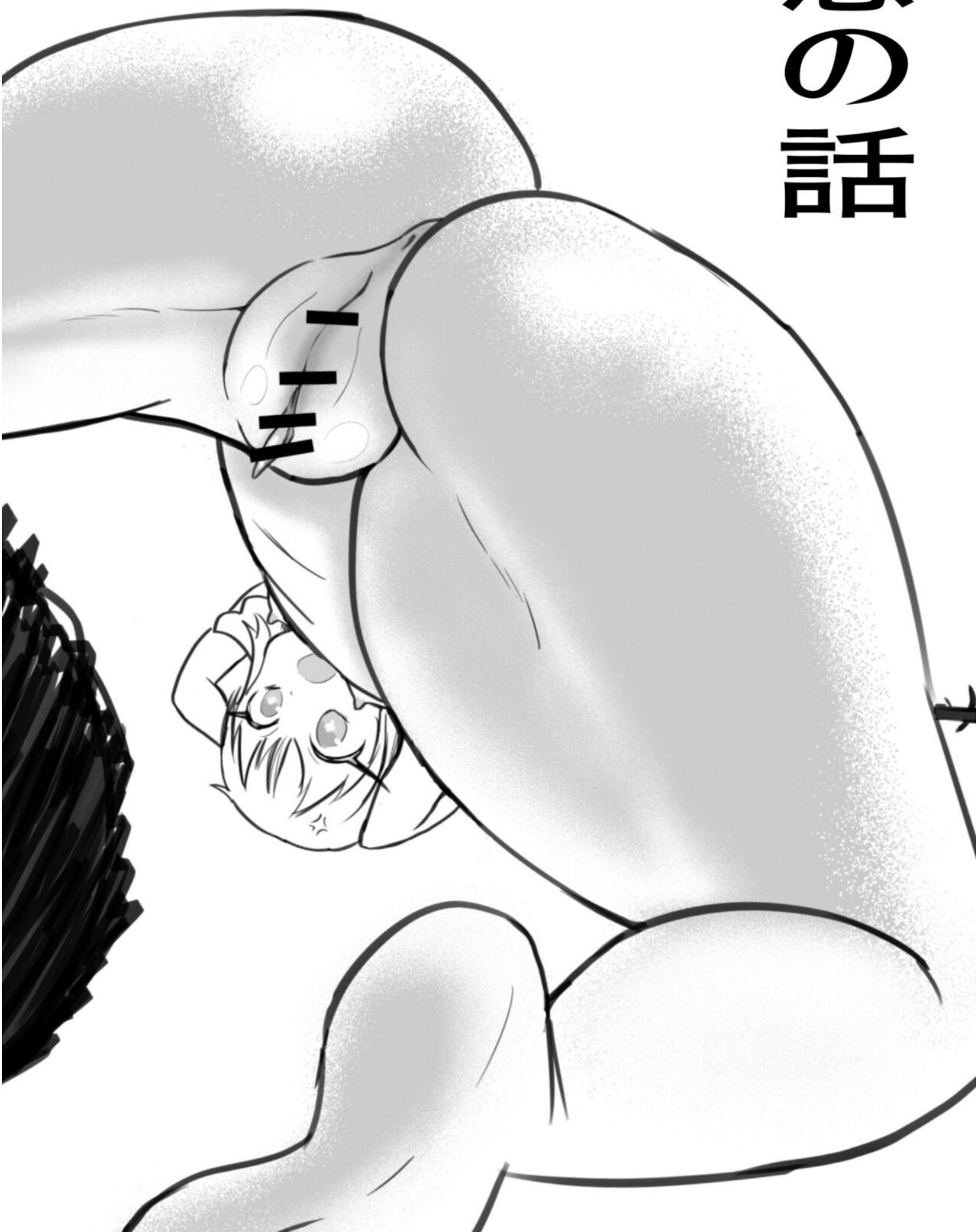
かつこいいいつえかえないびんぼうまじよめ!!」

只者じゃなさをうな日本魔女コノチ、

次に遭った時、勝ち目はあるのでしようか。



悪の話



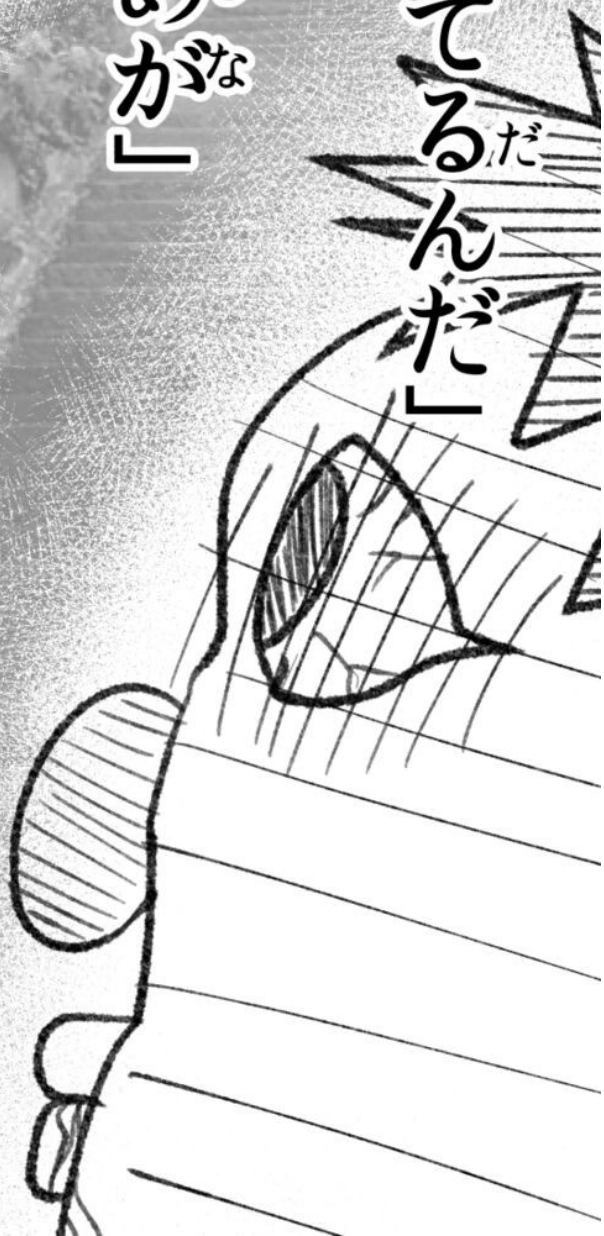
「おまえ、^すここでま^いつて^るんだ」

「は^らく^だん^ちの？」

「だ^これ^のが^いひ^ねを^みか^ぶる^なか^めが」

ムム

ルヒネは小用を足しに
行くようです。
らつきーちゃんす



「まったくもつてきょうはぼうけんが

すすんでいないぞわたしはえりーとなんだぞ」

大變無防備な格好です！

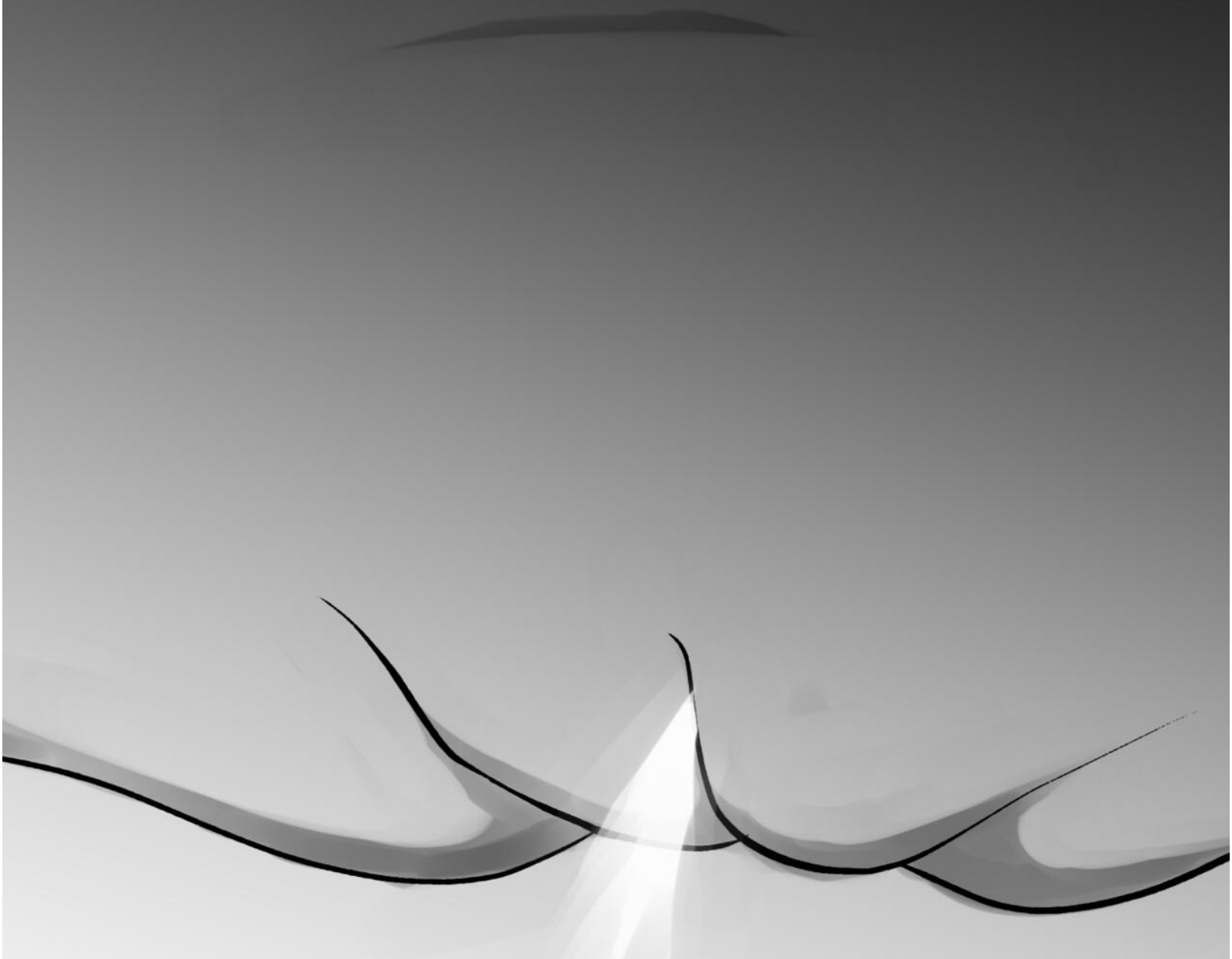
さらにルヒネは、

膀胱るひねに力きあいを入れます！

感動すばらしいまで秒読すりーかうんとみです！



—04—!



ル^るビ^ひネ^ねは^{おこりではなぐうけつな}誇^り高^きお^んな^のこ^こで^す！
こ^んな^な場^し面^んだ^れか^に見^みら^れた^ら
自^ぼ害^いを^おし^よつ^くで^しよ^う！



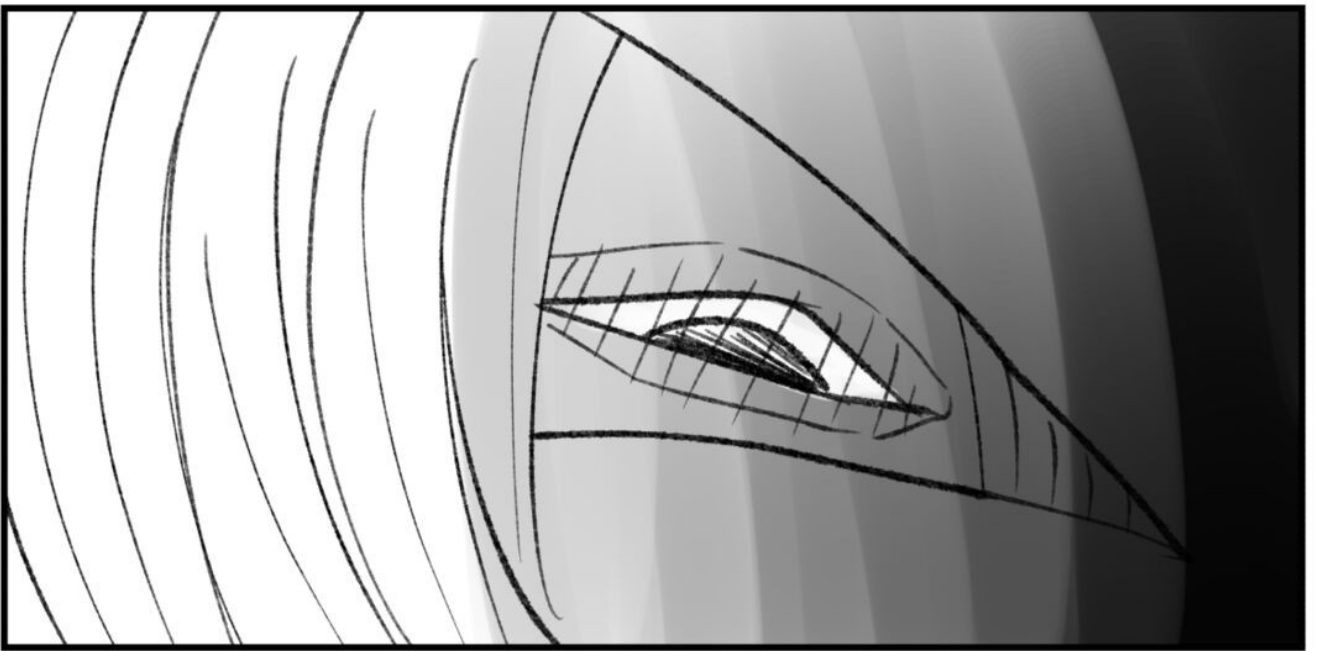


「やはり参加えんとうしていませんか。

お久ひさしぶりですねえ」

全裸ぜんぶさで放尿はらしてするルヒネのまえの前に
シリウスあすきキヤラやらが立たつていました





「きつろきは——」

さくからのものだな。

あとなんのつもりだ

くずめ。さいていだぞ。」

「ハ！その幼い身体で

ご冗談をオ。

このたいみんぐ
ことういう時じやないと

蹴飛ばされそうだ。」

体勢を変えないまま

ルヒネは冷静です。

ポールドロンの男

との会話はそのまま

続くようです。



「いま知られている
たまねぎ山の構成はこう。」

「検査・観察と言いなながら
この霊験あらたかな山には
多くの魔女がこぞつて外征している」

「第一層の森林地帯はともかく
向かうところになる
第三の情報が足りなすぎる。」

しよおおおおおお

「ぼかあお宝とるもんを。貴女あなたは…目的おつとつとを。

——いいと思おもうんですよねエ。

ここはまほうまほうのくきに出身しゅんどうし協力きやくりして
ライバルらいばるたちにに差さをつつけまししようか。」

「いとわる。このルヒネはかたたくなにはことわる

しよおおおおおおおお

「はああり!? なんですと! おい! なんでだ!」

「このうい^のこたえもかんがえてなかつたのかよ...ばか。

そもそもおとし^{おしつこちゆう}いれにのりこんでくる

でりかし^りに^にかけたおとこはおこ^だとりだぞ。」

「そうか! 貴女^{あんた}は志^{いし}が低^{ひく}いんだ!

秀^すでた水^{すい}の魔女^{まじゆ}でありながら

上昇^{あがしん}ではなく、人探^{とさが}ししてるんだろ!

調べ^ずたから知^だつて^るぞ、たしかそいつ^うは、

「おい、名^なを言^めうな」





「メブ
ラフ
ヴラ」

30
ふあ

「なまえを……よんだな……きさま……つぶす！」
ルヒネは戦うために立ち上がります。
なお、おしつこは未だに放出し続けています。
つまりそのため脚に尿がかからないように
不格好ながらに股なのです。



「おおん!? その格好で戦るつもりですかね!」
対峙する敵はほくそえみます。

「いいかー！ばかあ

服を着ている！

それも軽鎧の下に

四枚重ねだ！

相對する貴女は

すつぽんぽん！

その上女子として絶対に

見せていけない姿で！」

「おやあ！怒ると陰核が立ち上がる特徴も

はつつつつつつきりわかりますよお！

下の毛も生えてないから鮮明に白日の下に！

尿道から出る飛沫でブルブル勃ち振るわせる様が

見るも滑稽語るも滑稽！これがルヒネ様のおしっこだら〜い！」

男は言葉で凌辱し言葉で殺しにかかります



「おまえはバカと気がが

しつれいだぞー！」

くらえ！
乾坤一擲の一撃を！



「あいたたたたあ♡」
重装備の男はバランスを
くずしつつも耐えました！

ピンチ！片脚を掴まれ
なんとも無防備です！

「ぐふ……この名前にここまで執着するとは……
あなたさまを派閥にひきこむ材料を見つけたぞ！
それからこのぼくも元老院に認められ——」



「しらんわ！」



二の太刀^ほ！魔法的^んな加速^をを得た利き^い足蹴^りです！

「うわああああ！」

男^やは崖^つから落^っちて死^まにま^じました。



「めぶらふ
メブラフ…」

のこるおしつこをだしながら
ルヒネの回想がはじまります



メブラフヴラといっしょにいっしょ

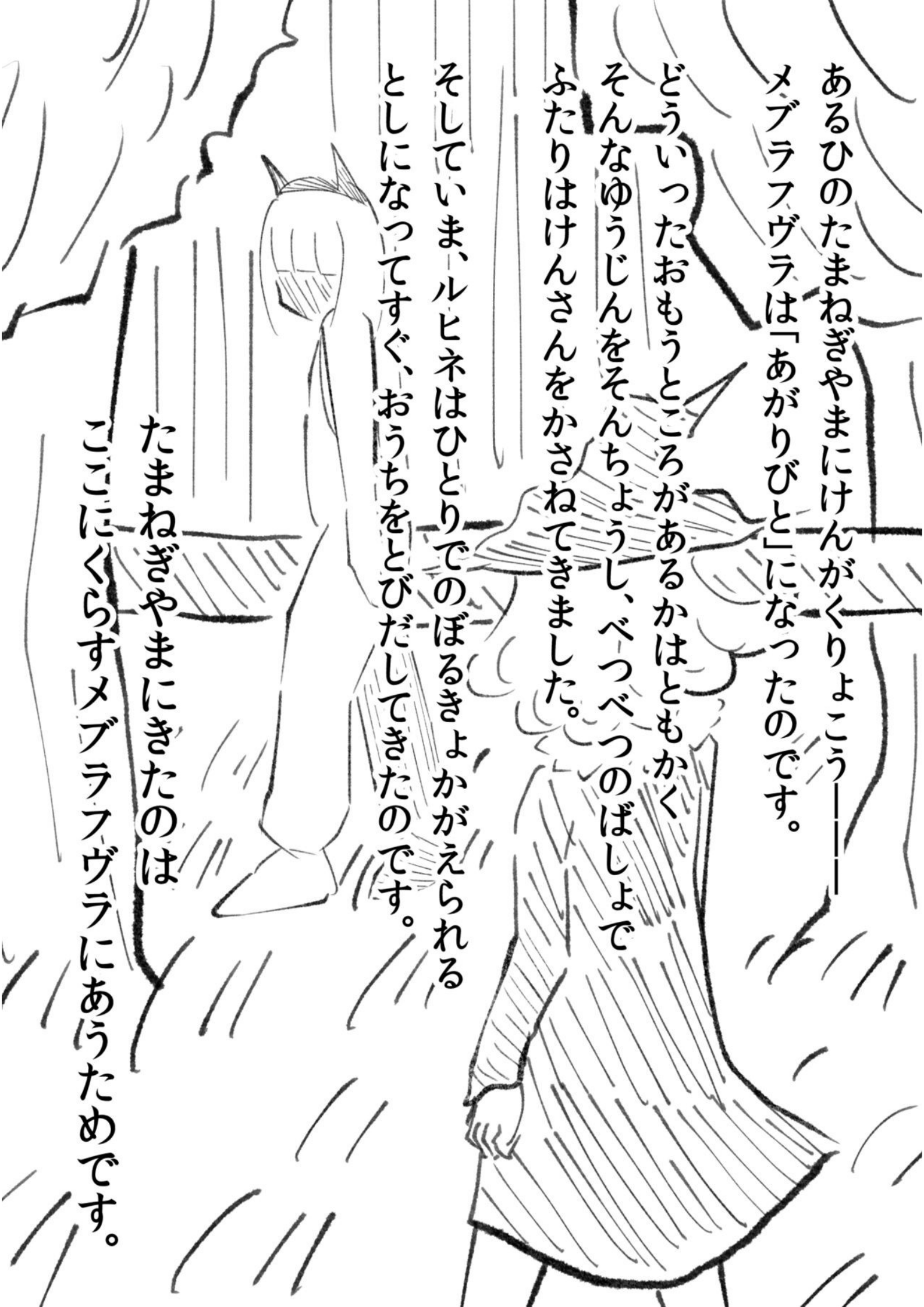


ルヒネのおうちにひきとられ
たいそうなかよくすごしていました

メブラフヴラのつむぐらと
ルヒネのおるきじ



ふたりはまほうのくにでいちばん
あついきょうぎ「おさいほう」の
たぐいまれなるさいのうがありました



あるひのたまねぎやまにけんがくりよこう——
メブラフヴラは「あがりびと」になったのです。

どういったおもうところがあるかはともかく
そんなゆうじんをそんちようし、べつべつのぼしよで
ふたりはけんさんをかさねてきました。

そしていま、ルヒネはひとりでのぼるきよかがえられる
としになつてすぐ、おうちをとびだしてきたのです。

たまねぎやまにきたのは

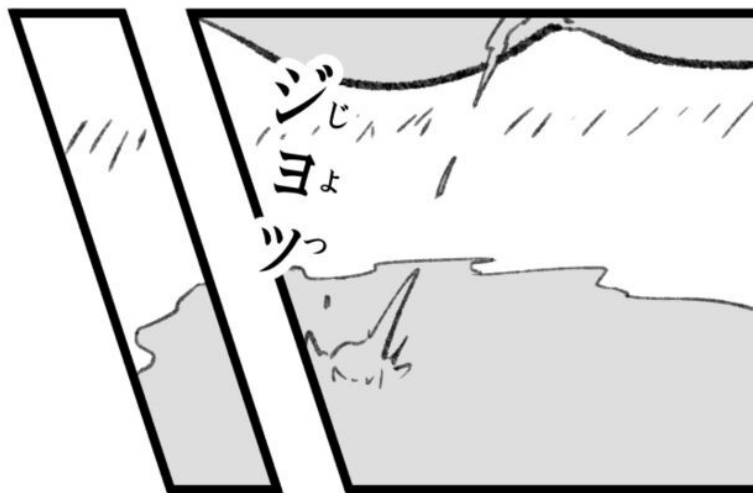
ここにぐらすメブラフヴラにあらうためです。

あ びと ～上がり人～

ひと 人は標高の高い場所に来ると
きもち 神性が高まり地上の生活には
かえ 戻れなくなるといいます。



さいこうほうにいどんだもの げざんしゃ
かのエベレスト登頂者に帰還者がこれまで
ぜろにん ゆるぎないぷるーふ
皆無なのもその事実の裏付けです。



めぶらふ
相棒は

もういないけど

かえ
また戻ってくるんじゃないか

いまだ
ルヒネは今も

盗^やられました



いふくは

かえしてやんないから

おまえとちがつてゆだんなきものより



くあらずじく

まほうのくにの魔女つ子ルビネは

修研地たまねぎ山に修行を兼ね昔わかれた幼馴染にあいにきていました。

出会った迷子の同じ年頃の男の子を案内をしつつ冒険をすすめます。

おしっこしてる途中、まほうのくにの追手があらわれ名家の嬢である

ルビネの身柄をねらってきたますがなんとか撃退。

しかし、枝にかけてあった衣服が盗まれていた！

しかし、枝にかけてあった衣服が盗まれていた！

しかし、枝にかけてあった衣服が盗まれていた！

しかし、枝にかけてあった衣服が盗まれていた！

しかし、枝にかけてあった衣服が盗まれていた！

しかし、枝にかけてあった衣服が盗まれていた！

「タリオお！そつちはぶじか！」



せむりつじょうが
いふくをぬすまれた

ルヒネがおとこのことごうりゆうしました。

しめい
あほでむのうでたりないおとこというので
ちなみにこいつの名前は足りない男と書いてタリオです。



「まほうのくにからのめんどろくさいすかうとか？

いや、それならさっきのやつみたいになちよくでくる……
それならばげんじゆうみん、いや、もりぜんたいが……？」

おまたまるだしまるだしで思案ふけるするるひねです。

「じょうきょうがきけんになつている」

「きみはわたしからはなれる」

「おちつけつてー!」

「タリオは驚天動地の凶行にでます!
ルヒネの女性器を万力のごとく手掴みしたのです!



「そ・も・そ・も

ぼくのかえりみちを

みつげるやくそくだろ〜?」

「いたたー!どいっぴつぱってるー!

おんなのだいじな

ところをちぎるきか〜!」



「それに、こまつてるおんなのこ
をほうつておけないしね
ぼくはついていくぜ」



こいつはやくしなないかな

「たりお……」



さっ
不快感50割増の「悪の話」
わりまし
ねが
るひねのはなし
よろしくお願ひします



「あちやーおま○んこにぎりしめてたから
ゆびににおいがつい「かぐな!」
「かぐな!」いうなあ!」



どろぼうをおいかけます

「ふくどろぼうはこつちのぼうしでまちがないんだな！」

「ああ、おとがきこえてたぜーてか」

「おこつてるとおしりのあながきゅつとなる」

「ばか！」

そこらへんの^{もの}物体で
衣類をこしらえました

「すくないけどないよりもましだった」
ルヒネは伝家の宝刀のおさいほうをひろうしとくいげです



「ようし——きけんなやつはいないようだね……」

「おーい……まあいーや」

トホホり!!^{とほほ}いまのマジカル^{まじかる}りよくでは布面積^{すけいせき}がたりなすぎて
タリオ^{たりの}からじよせい^{せい}きがまる見え^{みえ}な真実^{まこと}にまだきづいていません!

かわをわたります

さいわいあさい川^{かわ}なので
荷物^{もの}をまとめてとおれるようです

「ぼくがあずかるぜ」
「みずにつけるなよ」

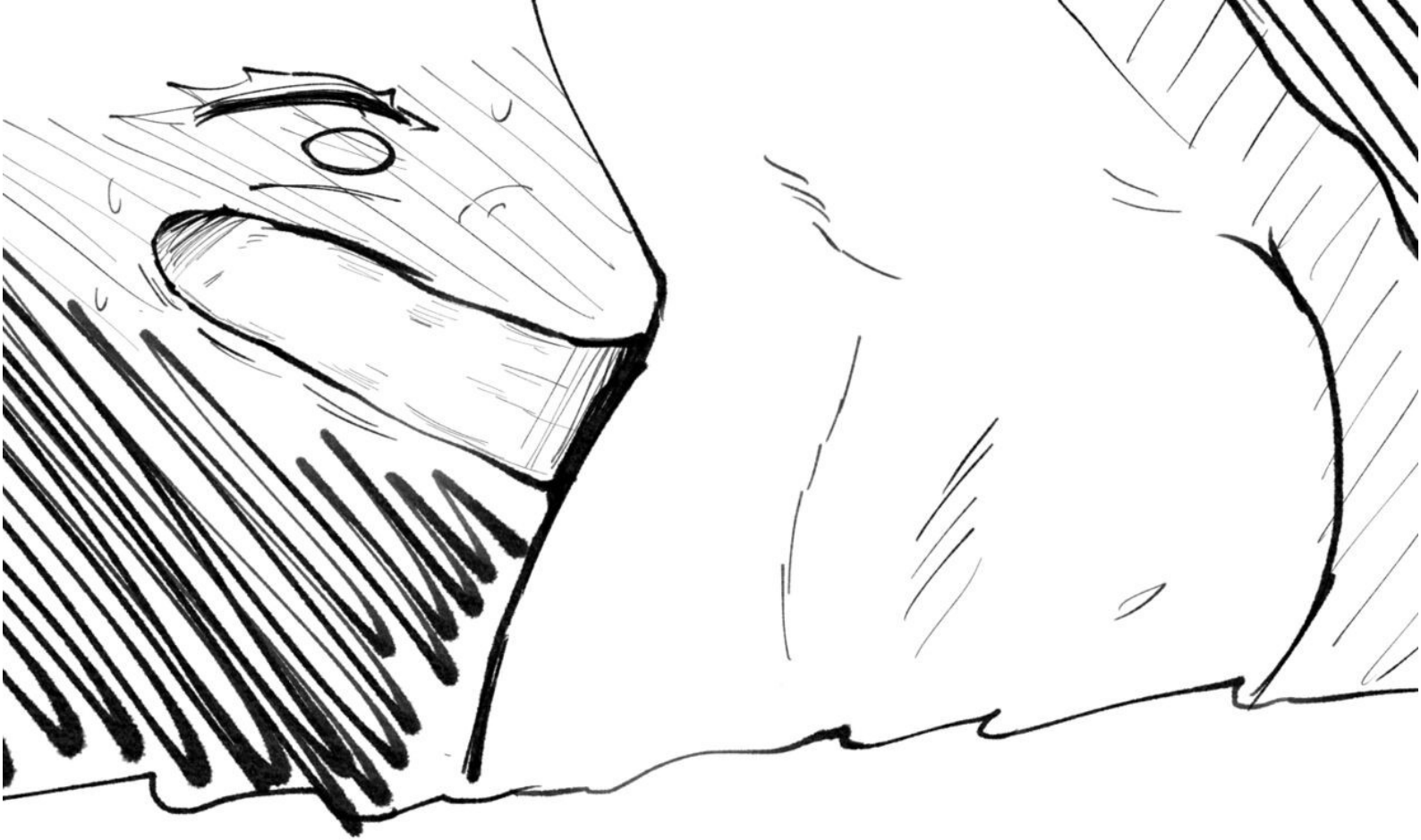


ということはこいつも
脱着^{ぬぎ}でるのか？
.....ふれふれ

そんならきのもち
知的^{そんく}好奇心^{らいのきもち}でした







「わり、ぬらしちゃった」

ほんとうにつかえないおとこです



(ち!ちんちん!ちんちんだ!)

(わたしをみてっでことだよな?)

さわってもいいのか...?)

ルヒネは六魂六塵三世でおさえこみました



ここからさきのページはまえのページから
数年^{すうねん}たって描^かいたものです
ちがっててもゆるしてね



悪の話

たまねぎ山やまの森・終着点

においを辿たどつてきたルヒネとタリオのまえ前に

ふくどうぼうはあらわれしました。

なんてことない、ちやちい樹木ゆきこもくのモンスターぼけもんです。



「メブラフ……なのか？」

「ルヒネア……きやがつたな」

木モンスターのおくに

なつかしい気配をかんじとりました。

操縦者は、ルヒネアがこの山でさがしていた

幼馴染のメブラフブラだったので！



「もつとははずかしいすがたにしてやる
そうじゃないとわりにあわないなあ」

「メブラフリー！どうしてだ！」

もり
あし
森を手足ののように
あつ
操りルヒネを
すがた
あられもない姿で
こてい
固定します！

だけよんでください

と
メブラフブラは、元々アパレル系魔女の名家であるルビネの家を
乗っ取る目的のために共に幼少期を過ごしている賊の出自でした。

しかし自分の才能が全く及ばない事に思うところがあり、

たい
魔山たまねぎ山に籠りました。魔エネルギーを吸いながら過ごすも

み
山に自身の霊が分解され、たまねぎ山のフロアボスとして

よ
復讐の時をここで待っていたのです！つまり、逆恨みです！



「ようぶんを、すいつくしてやる！」

服も破かれ、末端の事務所の

撮影でもしないような

超えび反りに折り曲げられ、

裸体が露わにされ、

魔エナジーを吸い取られる

ルヒネ、絶体絶命です！

「くそう！はずれねえ！」

偉たりおなくのせそには糞こ無れ能みなよタりオしは
ルるヒひネねのる女ね性ね器ねによるびねかねけるねしかねできねませねん



「タリオ！わたしに
かんがえがある！」

「きつげがひつようだ！
さつきからみてるおんなのこの
お、おちん………とがった
ところをかるくしげきして！」

「はあくつたく
しょうがないなあ」





げろえぐいしやぶりつき
執拗な責めにルヒネの
ばないもんすたーえねるぎー
膨大な魔パワーが

ま

ず

い





アパレル魔女である以前に
【水】の魔女である素養が
周囲の【導管】を膨らませ

ばりーんいうとります
大爆発するのです



ぜろでい
大爆発の後、
もりは焼失、
森林は焼失、
この山が現実と切り離されている場所だと
知らしめてくれます。





「なあ、これからどうするん」

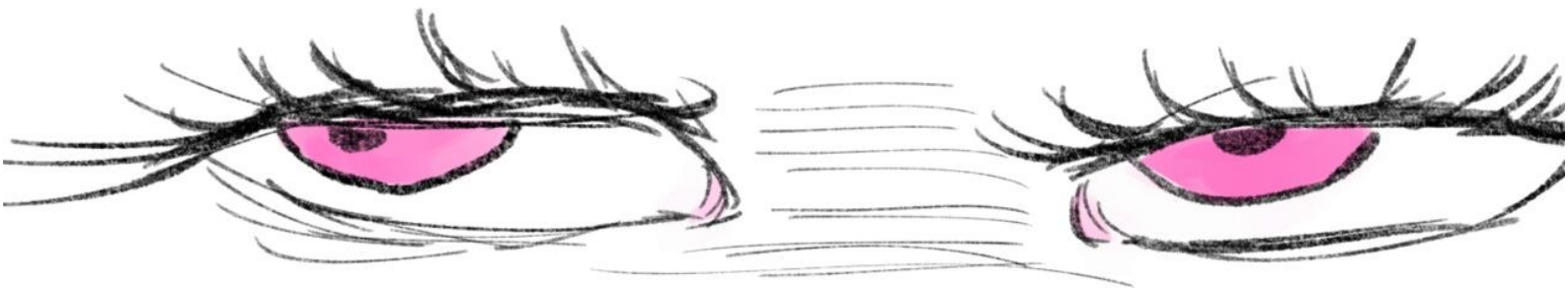
「ひとりにしてくれ
.....」

この魔女式たまねぎ山行脚の

目標だったお友達がいなくなり、

しかも友達じゃなかったシヨツクで

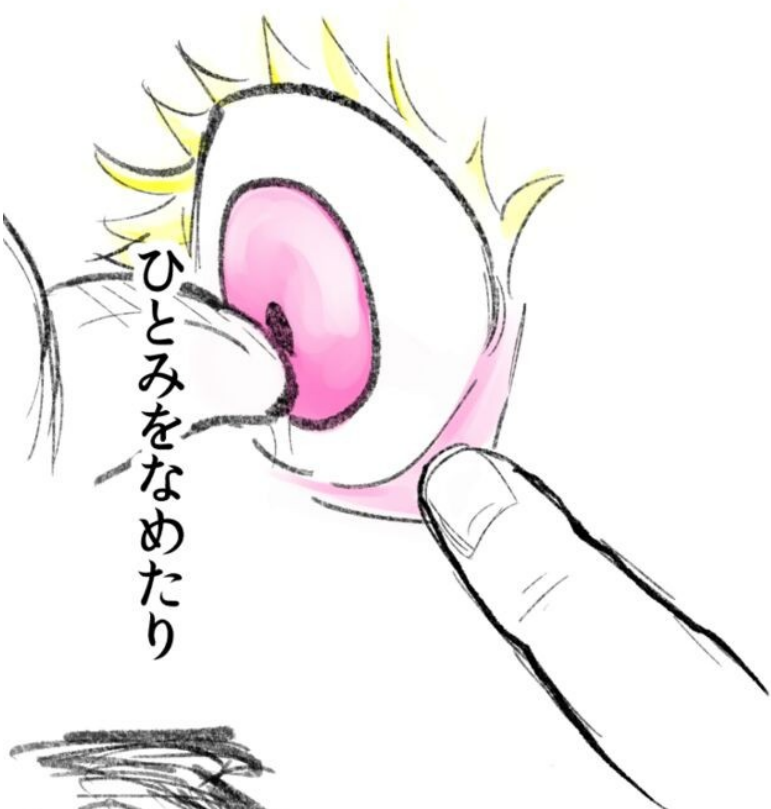
ルヒネは意気消沈しています。



「おーいおきろー」



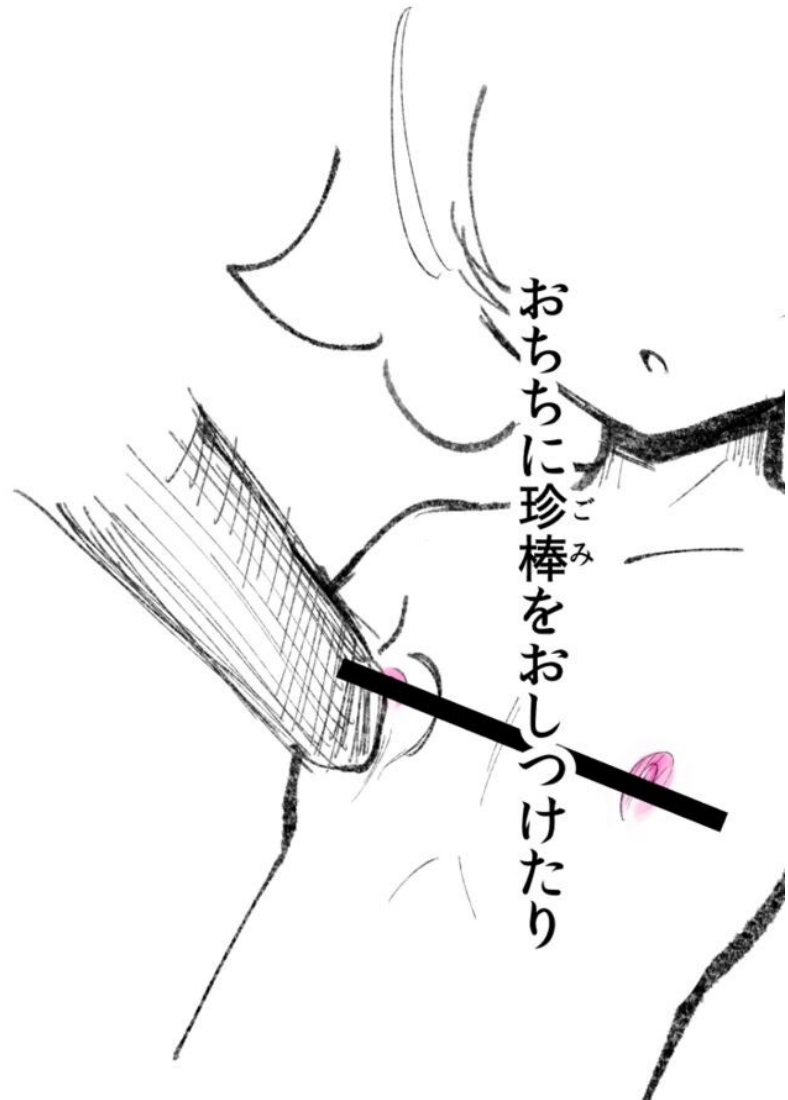
はなに指ゆびを入れたり



ひとみをなめたり



タリオはルヒネの
肢からだ体がを使ほいたふりたいれ放み題あです！

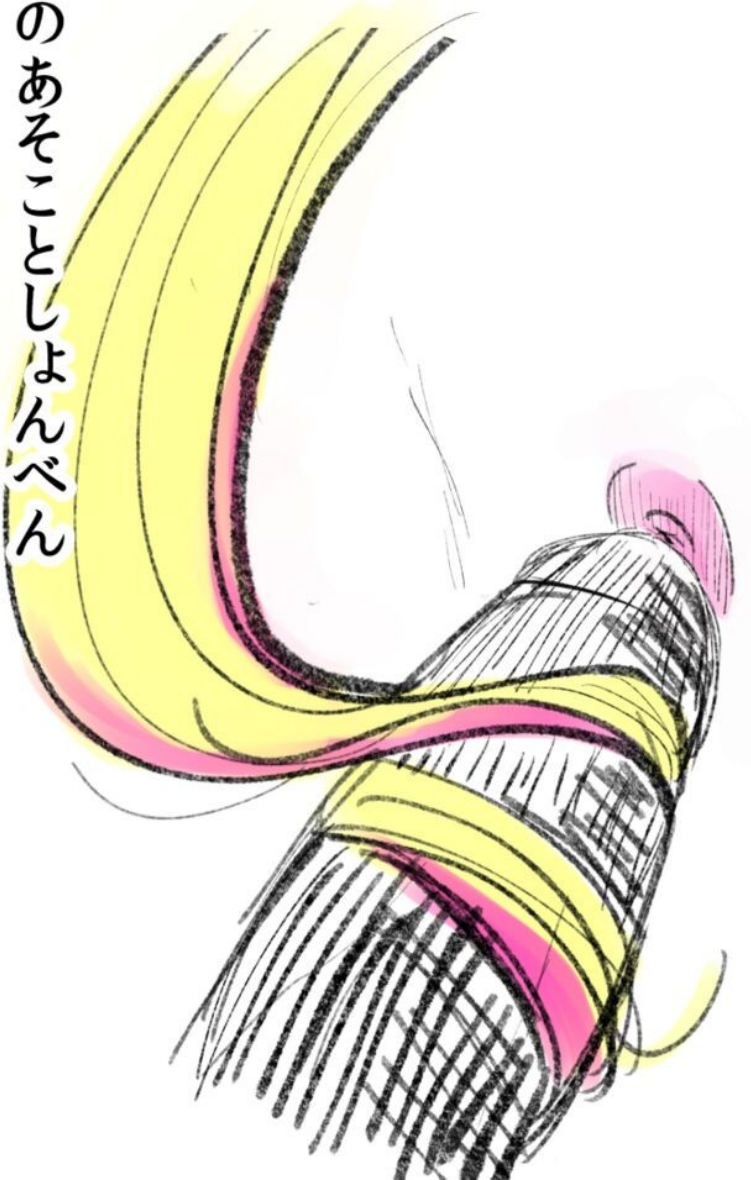


おちちに珍ごみ棒をおしついたり

「おおーい」



「おまえのあそことしよんべん
みたいないろのかみよごしちやうぞー」



「これでもかー」

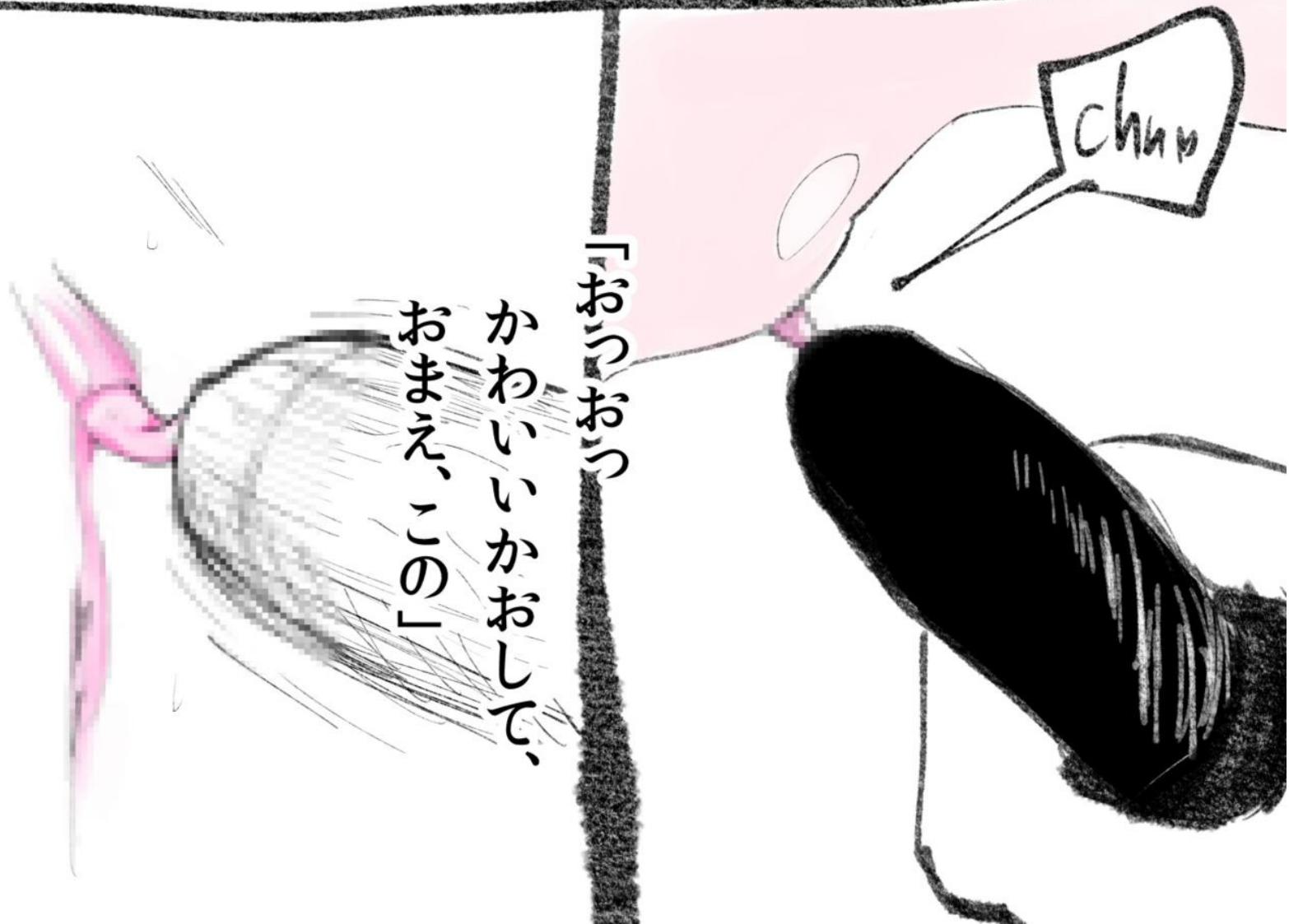
「ちつきまでおったつてた
のに、ここ、しなしなだね
みかんつぶみたい
そーれひよこひよこ」



Chup

「おうおう

かわいいかおして、
おまえ、この」



「うひよお ぎっしょこれ
はいつてきたんだけど」

ルヒネが正気しやまに戻もどったのは
むしやり勃起たさせた
陰核みかんつぶを陰茎わすちの尿道たははに
挟はさみこんで、それを引ひつ張ばり
出だしてるあたりでした




「なにやっつてんだあああああ！！！！！！！！！！」

もんまじ
当然の反応です
とれだか

ぬぽっ



ルヒネは上あせんに登る旨を表明たねばれしました。



「メブラフはきえてはいない
くだかれたたましいは、
まだこのやまに——」



「まじよだからじゃない、

ともにずっとしてきたからわかるんだ」





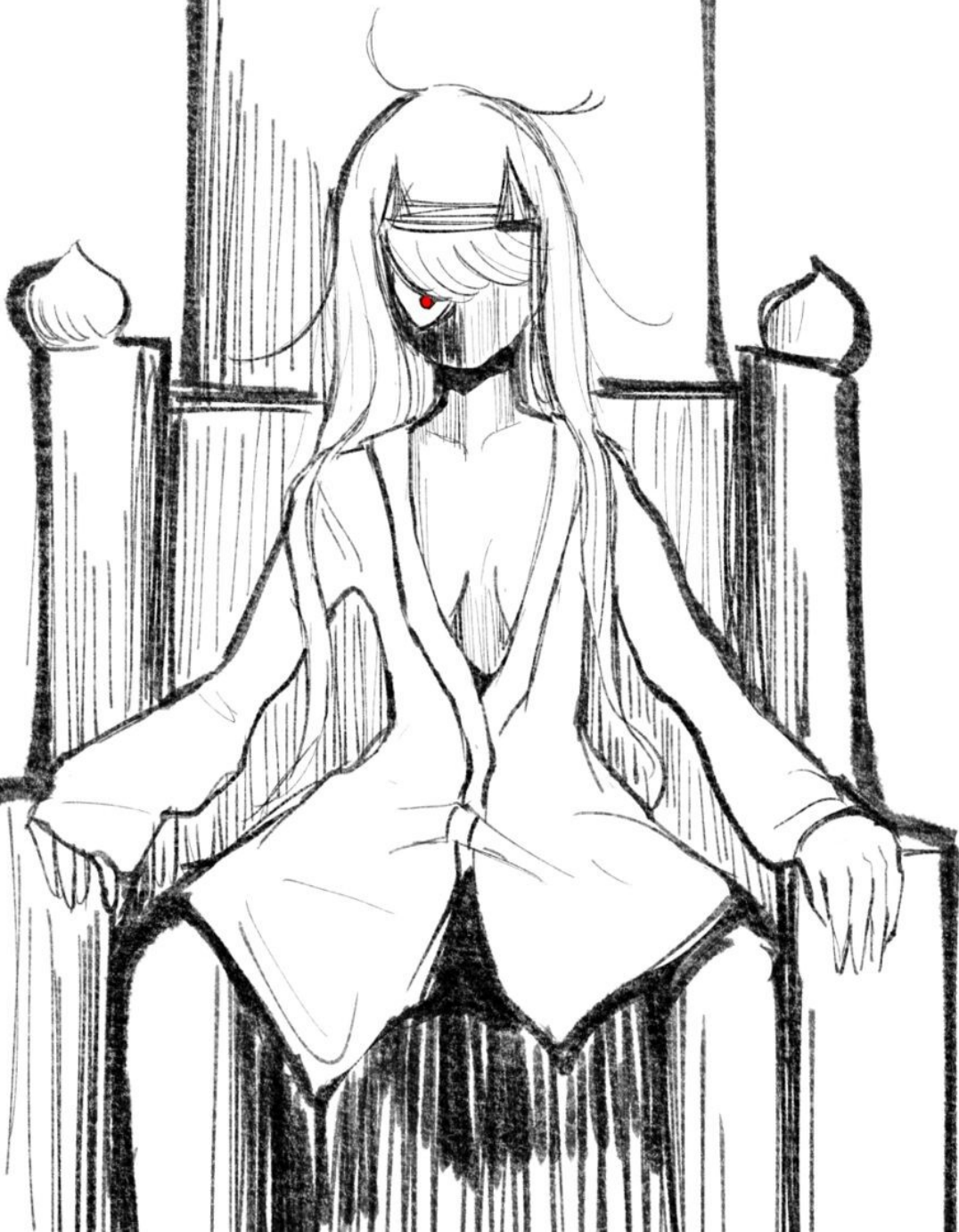
ここからさきは険しい道です

件の日本魔女コノチ以外にも
頂上踏破をたくらむ手強い各国の魔女
と遭遇することもあるでしょう

ねぎやま・へるせかんど・ろっとうざこあ
たまねぎ山・第二階【温泉街】

「メブララブブラー1がやられたか」

なにやら不き穏なな感くじさいいです



(あいつをくるしめていたわたしはあくだった——
それでもいもひくりゆうにはならない、またあうんだ)
ルヒネは倭黎明われめまるだしでタイトルたいとるを回収まきとりしました。



でも賢明けんめいな読者おまへ諸兄あにならわかるでしょう

最低^あの悪^く人はてめーだ!!!



死ね

し
ね

死ね



おしまい

おまけ・立^たつたまま嬉^{うれ}しよんするシーン描^かきたかつた



かってにしろ……